

別紙様式

令和7年度 学校評価報告書  
小樽市立長橋小学校  
校長 及川 年彦

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。

A:100%以上 / B:80%以上100%未満 / C:80%未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1 本年度の重点目標

一人一人の子どもを主語にする学校  
～安心・安全な環境で、必要な資質・能力を確実に育む～  
全ての教育活動で「自己存在感を感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を展開する。

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方針

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国的な調査問題における記述式問題を学期ごと等複数回取り組み、平均正答率を10%以上伸ばす。 児童アンケート「自分から進んで考えたり、発表したりしている」の肯定的評価90%以上とする。	A	課題となる記述式問題について複数回の取組を実施した結果、2月正答率約25%増となり、目標を達成した。「小樽の授業づくり5つのステップ!」に基づく授業改善を進めたり、「自己決定」を授業に位置付けたりすることにより、児童アンケートにおいて、「自分から進んで考えたり、発表したりしている」の肯定的評価は前期が91.5%、後期が93.5%となり、ほぼ目標を達成した。後期の取組が伸びており、確かな学力の育成に向けた取組を進めることができた。	◎
	特別支援教育の充実	外部講師による特別支援教育に関する校内研修を年間1回以上実施し、「実践に役立つ研修だった」と回答する教職員100%とする。	A	9月4日、北海道済生会みどりの里よりOT(作業療法士)の佐藤 匠先生を外部講師に迎え、校内研修を実施した。講義のほか、日常の学習活動で使える様々な具体の物品(椅子に敷くマット、ノート、筆記用具)を紹介いただき、参加した全ての教職員から「日頃の実践に役立つ内容だった。」「紹介いただいた学習用具をぜひ使ってみてみたい」などの100%の肯定的回答を得た。	◎
	国際理解教育の充実	外国語活動や外国語の授業で年間2回以上ALTとのT・Tや中学校教員の乗り入れ授業を行い、「授業が楽しかった」と答える児童80%以上とする。	A	12月10日、中学校教員による英語の乗り入れ授業を実施した。ALTによる授業については、4月から12月までで、2名(トム・ライリー)のALTが計31回来校し、3年生以上で外国語活動や外国語の授業をおこなった。児童アンケートでは、前期99.4%、後期98.4%とほぼ全ての児童が「授業が楽しかった」と回答しており、英語をはじめとした国際理解教育の充実に十分資することができた。	◎
	理数教育の充実	児童アンケート「算数の勉強が好き・分かる」の肯定的評価80%以上とする。	A	児童アンケートでは、「算数の勉強が好き」について前期80.4%、後期81.6%、「算数の勉強が分かる」について前期94.1%、後期90.0%となった。ICTを活用や単元を見通した学習課題、振り返りなどの授業改善により、「算数の勉強が好き」と感じる児童の割合を高めることができた。一方で「算数が分かる」については4%下がった。今後、理数教育の充実に向けて校内研修の取組など一層の授業改善が必要である。	◎
	情報教育の充実	「授業や朝の会、係活動等日常的に端末を活用している」と回答する教員100%とする。	B	教職員自己評価では、前期78.9%、後期88.2%となった。目標の100%には届かなかったが、前期と後期で10%近い数値の改善が見られ、端末の利活用を含めた情報教育の充実には着実に前進している。引き続き日常的な活用に向けて情報を共有したり、研修などで実践事例を学んだりして、目標の達成に向けて取組を継続していく。	◎
	キャリア教育の充実	児童アンケート「将来の夢や目標をもっている」の肯定的評価90%以上とする。	A	児童アンケートでは、前期91.4%、後期93.5%といずれも目標を達成した。前期から後期にかけて数値が向上していることから、例えば低学年のバス乗車体験や、高学年の半導体に関する授業など、外部と連携した子ども達のキャリア形成に資するための取組が、着実に成果をあげたものと考えられる。	◎
改善方針	授業等での端末利活用が確実に増えてきている。ICT担当を中心としたサポートチームを立ち上げ、「ちょっと教えて」が言いやすい雰囲気づくり、利活用の選択肢を増やすことによって「やらされ感」から主体性が生み出していく。技術面のサポートはもちろん、「安心」「成功体験」「仲間」「見える化」の4つを校内研究や学力向上と結び付けながら、学校全体に浸透させていく。また、情報リテラシーとして「情報を正しく扱う力(安全・モラル)」「情報を読み解く力(見方・考え方)」「情報を創造する力(表現・協働・発信)」の3つの柱を意識した活用を推進させる。				
学校関係者評価委員による意見	◇端末の活用は避けて通れないが、子どもの主体性が生きるような使い方を考える必要がある。漢字学習など向き・不向きも踏まえ、これまで培ってきた日本の教育の良さも生かしながら、バランス良く取り組んでほしいと思います。 ◇外国語教育も大切だと思いますが、日本語教育の充実も同様に進めてもらいたい。				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケート「学校のきまり(学習・生活)を守っている」「自分からあいさつしている」「自分によいところがある」の肯定的評価90%以上とする。	B	教職員・児童による定期的な自己点検や生徒指導の4つの視点に基づく教育活動を行うことにより、児童アンケートでは、「自分からあいさつしている」については、前期95.2%、後期94.5%で目標を達成した。しかし、「学校のきまり(学習・生活)を守っている」について前期78.4%、後期78.8%であった。きまりを守るものの数値は若干改善したが、目標には到達しなかった。	◎
		ふるさと教育の充実	外部講師を活用したふるさと教育を実施し、児童アンケート「ふるさと(小樽)が好き」の肯定的評価80%以上とする。	A	6月12日、藤間流扇玉会会主の藤間扇玉先生を講師に招き、1～3年生を対象に潮音頭の講習会を実施した。また、6月4日と9月2日の2回、「知産志食しりべし」として、おたるの魚料理教室「たるこる」主宰の宮部由里子様、「ル・キャトリエム」オーナーシェフの漆谷壽昭様を招き、後志の食についての授業を行った。児童アンケートでは前期が96.6%、後期が96.2%と目標を大きく上回った。	◎
		読書活動の推進	児童・保護者アンケートともに、平日家で本を全く読まない割合を30%以下とする。	B	保護者アンケートでは前期が40%、後期が50.0%となり、目標を達成できなかった。長期休業期間中の図書貸し出しや良書の推薦運動などを継続するとともに、今以上に本に触れる機会を増やしていく必要がある。児童アンケートでは類似の項目として「本を読むことは好きですか」があり、前期は84.3%、後期は77.2%となった。学校図書館での読み聞かせイベントや、朝の読書活動など取組を進めており、本に対する興味や関心は決して低くないが、平日家での読書に必ずしも結びついていないことから、対応を検討する必要がある。	◎
		体験活動の推進	社会教育施設(総合博物館、市立小樽図書館、なえぼ公園等)を活用した体験活動を年3回以上実施する。	A	5年生の社会科や総合的な学習の時間で総合博物館を利用した。2年生の生活科で市立小樽図書館を利用した。低学年の生活科や遠足、中学年の総合的な学習の時間でなえぼ公園を利用した。全て合わせると、今年度はのべ7回の利用があり、目標を達成することができた。次年度以降も引き続き目標の達成に向けて取り組んでいく。	◎
		コミュニケーション能力の育成	児童アンケート「授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の肯定的評価80%以上とする。	A	「小樽の授業づくり5つのステップ!!」に基づく授業改善を進めたり、「自己決定」を授業に位置付けたりすることにより、低学年の児童アンケートでは、前期100%、後期98.3%となり、目標を十分に達成した。中、高学年は類似の項目として「授業では、どうやって解決するか、誰と話し合うかなどを自分で決めていますか。」があり、前期91.1%、後期94.8%と、目標を十分に達成した。次年度以降も取組を継続し、コミュニケーション能力の一層の育成に取り組む。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	児童アンケート「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している」の肯定的評価85%以上とする。	A	児童アンケートでは、前期96.3%、後期97.3%となり、目標を十分に達成した。僅かではあるが、前期から後期にかけて数値が伸びており、児童会を中心に取組んだ「リーフ君・雪だるま君」や、長橋中学校区で取組んだ「いじめ防止サミット」の成果と考える。次年度以降も取組を続け、いじめの防止(見逃しゼロ)や不登校児童に対する一層の支援の充実を図っていく。	◎
改善方策	道徳の時間が日常生活に結びつく発問を行うことによって、例えば、きまりは「守らせられるもの」ではなく、「みんなが安心して過ごすための仕組み」であることを知り、児童の行動変容を促していく。また、教師自身も率先してモデルとなる言動を統一感をもって学校全体で行っていく。 学校での読書活動は、朝読書や読み聞かせ等、環境を整えることによって充実させていく。さらに、家庭との連携を深めていくために、「読書をやりやすくなるための情報発信(家でできる3分読書、読み聞かせのコツ等)」や「同じ目標を共有する(月1冊の読書、読書後の1文感想等)」を行っていく。					
学校関係者評価委員による意見	◇読書については、家庭との一体化した取組が不可欠であり、粘り強く取り組むしかないと思います。そのためには、「親がまずスマホに触れる時間を減らす」「家庭での読書タイムを設ける」などの保護者自身の意識改革に向けて、学校と連携のもと進めていく必要があると思います。 ◇「先生方がどれだけ普段本を読んでいるか」「本の良さを子ども達に伝えているか」「先生が小さかった時にどんな本を読んでいたか伝えているか」といった担任の先生方の取組が大切だと思います。					

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	20mシャトルラン、上体起こし、反復横跳び等自分の課題に年2回挑戦し、記録を伸ばす児童70%以上とする。	A	体力・運動能力の向上について、1学期に全学年で体力・運動能力調査に取り組み、その記録をもとに2学期の終了を目標に「自己記録チャレンジ」に取り組んだ。自己の体力状況について、前年の記録や全国・全道平均等をもとに、客観データを用いて個々に把握することができたことよって、第1学年の達成率87%、第2学年の達成率100%、第3学年の達成率64%、第4学年の達成率96%、第5学年の達成率56%、第6学年の達成率50%となり、目標を達成できない学年もあったが、全体では達成率が75.5%となり、目標を達成することができた。	◎
		食育の推進	栄養教諭等外部講師による食育の授業を全学年で年1回以上実施し、朝ごはんを毎日食べる児童95%以上とする。	B	2学期に、花園小学校より栄養教諭を招き、1～4年生に食育の授業を実施した。また、5年生は6月と9月の「知産志食しりべし」の取組で食育を実施した。6年生について2学期終了時点で実施できていない。3学期に実施する必要がある。児童アンケートでは、「朝ごはんを毎日食べる」割合が前期93.4%、後期91.2%となり、目標を達成できなかった。また、僅かだが数値の落ち込みが見られることから、保健だよりや学校HPで「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について今一度周知するなど、取り組む必要がある。	◎
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室等を年1回以上実施し、児童アンケート「身の回りの薬物の危険が分かった」と回答する児童90%以上とする。	A	道警によるオンライン型の非行防止教室を実施し、児童アンケート「身の回りのSNSや薬物など危険なことがわかりましたか」という設問に「わかった」と回答した児童100%となった。また、「オンラインだと、自分の意見を伝えやすかったし他の人の意見も確認しやすかったです。もし、また似たようなことをやるとしたら今回のようなオンライン型のほうが私はやりやすいと思った」「知らない薬物や危険なこと(オーバードーズやデジタルタトゥー)について色々知れて楽しかったと同時に、改めて危険なことや詐欺に気をつけようと思った」等の感想があった。	◎
改善方針	今後も新体力テストを単なる評価ではなく、「成長の記録」を実感できるものとなるよう「目的＝自己決定(選択)」を取り入れた取組を継続していく。また、体育の授業の中に「成功体験できる場」を位置付けることによって、運動する楽しさを実感させていく。 次年度は、子どもが一生を通して健やかに生きるための土台としての食育を全学年で実施していくとともに、その様子を学校だよりや学校HPで発信していく。					
学校関係者評価委員による意見	◇体力向上の改善方針にもあるように、成功体験や楽しさを大切にすることは、息の長い活動にしていく上で大切なことだと思います。達成感、成就感を感じさせる活動の継続を期待しています。 ◇食育の推進について、今日(2/27)の新聞に「食は愛なり」という記事がありました。ぜひ、先生方にも読んでもらい、指導に生かしてほしいと思います。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	児童・保護者アンケートともに、家庭学習を全くしない割合を0%とする。	B	児童アンケートでは、前期3.4%、後期2.3%となり、目標は達成できなかったが、前期から後期で数値は改善しており、学力向上係を中心に取り組んできた「家庭学習がんばり週間」などの取組の成果と考える。一方、保護者アンケートには、前期0.0%、後期0.0%となった。引き続き、保護者と連携し、家庭教育支援の充実を図っていく。	○
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケート「学校は、学校便りやホームページなどで適切に情報発信をするなど、家庭や地域と連携した取組を進めていますか。」の肯定的評価90%以上とする。	A	保護者アンケートでは、前期98.8%、後期95.6%と目標を達成した。後期にかけて若干数値の落ち込みが見られたが、「進めていない」とした回答は0であり、学校の取組は地域や家庭に浸透している物と考えられる。引き続き丁寧な情報発信に務めていく。	◎
改善方針	家庭学習の目的(「宿題をこなすこと」でなく「自分で学ぶ習慣をつくること」)を改めて保護者と共有し、時間が短くても、長く続けられることを目指していくとともに、家庭学習の手引きを年度当初だけではなく、定期的に啓蒙していく。また、主体性を育むために、発達段階によって「選べる家庭学習(選択制)」を導入し、自己決定して取り組む習慣を低学年から育てていく。					
学校関係者評価委員による意見	◇家庭学習について、日常の家庭学習の評価といった親や先生方からの励ましは、継続の大きな力になる。その点でいえば、数値目標は見直してもいいかもしれません。「家庭学習頑張る週間」での先生賞など、子どもの励みとなる良い取組を今後も継続してほしいと思います。 ◇学校ホームページの更新が適宜されていて、学校の様子がとてもよく分かります。今後も継続してほしいと思います。					

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫各部会で具体的な取組を3つ以上実現させ、高学年児童アンケート「中学校進学が楽しみですか」の肯定的評価85%以上とする。	A	学力向上部会では、各校の6年生に中学校で作成した復習課題を配布して、冬休み期間中に取り組んでもらう取組を実施した。生徒指導部会では、毎月の生活目標についてclassroomで共有する取組を実施した。教務部会では総合的な学習の時間のカリキュラム見直しに向けて複数回の部会を持った。高学年児童アンケートでは、前期が94.9%、後期が88.3%となり、目標を達成した。一方で後期にかけて数値の落ち込みが見られることから、特に6年生が前向きな気持ちで中学校に進めるよう、乗り入れ授業の一層の推進など、小中連携を引き続き進めていく。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境点検を年3回以上実施する。	A	教育環境点検について、通年定期的に行った。また、夏季休業期間に市内消防署より署員が来校し、消防設備点検を実施した。また、用務員と連携して外遊具の点検に取り組んだ。今後、1月下旬を目途に各特別教室準備室の整理が完了する予定であり、引き続き教育環境の整備・充実を図っていく。	○
		教職員の資質・能力の向上	仮説検証型から脱却した「校内研修」に取り組み、教職員自己評価「子どもの成長につながった」の肯定的回答80%以上とする。	B	教職員自己評価では、前期が100%、後期が82.4%となり、目標は達成した。一方で、後期にかけて数値が大きく落ち込んでいることから、課題探究型の研修の成果と課題について今一度全職員で共有し、子どもがこの1年間を通してどのように変容したか、その上で今年度の取組は子どもの成長につながるものであったかどうか確認する。	◎
		学校運営の改善	教職員自己評価「学校は、教育DX等による「働き方改革」を推進していますか。」の肯定的評価90%以上とする。	B	教職員自己評価では、前期が92.3%と目標を達成したが、後期は75.0%に留まり、目標を達成できなかった。在校時間の縮減やチャット機能の活用による迅速な意思疎通や欠席状況の確認など、働き方改革につながる成果は上がっているが、次年度以降、一人一人にとって働き方改革がより一層実感の伴ったものとなるよう、教育活動の見直しを進めていく必要がある。	◎
		学校安全教育の充実	緊急時の引き取り訓練やCSと連携した防災教室をそれぞれ年1回実施し、保護者アンケート学校での子どもの安心・安全の取り組みに対する肯定的評価80%以上とする。	A	6月6日、緊急時引き取り訓練を実施。保護者の協力のもとスムーズに進めることができ、11月の熊対応に伴う緊急引き取りに生かすことができた。また、11月28日にCS防災教室を実施し、地域の方々に本校の災害備蓄品について紹介することができた。保護者アンケートでは、前期97.6%、後期98.9%と大変高い評価となり、目標を十分に達成した。	◎
改善方針	仮説検証型の校内研修から脱却した課題探究型の校内研修での成果と課題を、具体的な子どもの姿で分析することで、子どもの変容を把握するとともに、次年度向けての方向性を策定する。働き方改革では、教育DXの導入が目的となり、情報の一元化などに課題が見られた。そうした課題を解決するためにツールを一本化するとともに、働き方改革委員会を立ち上げ、「校務のやめることリスト」づくりから改めて行っていく。					
学校関係者評価委員による意見	◇教育環境の整備・充実の数値目標「教育環境点検を年3回以上実施する。」は、日常的なことなので見直した方がいいと思います。 ◇働き方改革については、働きやすい職場をつくることを大切にしてほしいと思います。 ◇研修の成果を子どもの具体的な姿で把握するという姿勢に共感します。その分析方法や見取り方など難しい点は多々ありますが、果敢に取り組んでいかれるよう今後も期待しています。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		おたる運河ロードレース大会に向けて練習会を行い、「また来年も参加したい」と回答する児童90%以上とする。	A	主幹教諭と保健安全Gが連携し、放課後に練習会を複数回実施した。ロードレースに参加しない児童についても参加を可能とし、多い時で30名近い児童の参加があった。大会後の聞き取りでは、100%の参加児童が「来年も練習会を開いてほしい」「来年も参加したい」と答えており、目標を十分に達成した。	◎	
改善方針	本校での運河ロードレースに向けた取組が定着しつつある。次年度以降も多くの児童が参加できるよう練習会を複数回開催するとともに、走ることの楽しさ、適度に運動をすることの良さなどを子ども達が実感できるよう、児童会の活動とも関連付けるなどして取組を継続していく。					
学校関係者評価委員による意見	◇運河ロードレースについては、短期的な取組ではなく、日常的な体力向上の取組として続けていくことが重要だと思います。また、ふるさと教育の一環として側面もあると思いますので、引き続き継続してほしいと思います。 ◇参加料をもう少し安くしてもらおう主催団体に働きかけた方がいいと思います。					